はたらく女性のフロア通信

発行日　2016年3月25日

NO. 26

はたらく女性のフロアかながわ（ＷＷＦＫ）

〒221-0855　横浜市神奈川区三ツ沢西町８－２５－２０３　本間重子気付

電話／FAX　０４５（３２３）０６５３　E-mail　wwfk@hotmail.co.jp

HP　http://wwfk.jimdo.com/

大手電機産業のリストラの状況を聞く

▼大手電機産業のリストラの状況

最近、大手電機産業のリストラのニュースが目立ちます。東芝では、１万人規模のリストラの計画があり、経営の失敗を労働者の犠牲に転嫁しています。今回、日立製作所（以下日立）小田原工場で働き、退職後も電機・情報ユニオン神奈川支部委員長として電機産業に働く人たちの雇用と権利を守るために奮闘している中村由紀子さん（会員）に電機産業のリストラについて、日立を中心に話を聞きました。

▼大儲けなのにリストラ

日立は、大儲け（営業利益は6000億円、内部留保3兆円）しているにも関わらず、製造部門で黒字にするために人件費を減らし、利益をあげようとしています。中期経営計画（2012年～2015年）を着々と実行しています。２年間赤字が続く部門は撤退すると強気です。

日立経営計画であるカンパニー制＝情報・通信システム社の国内製造拠点を再編するとし、小田原事業所（ストレージ生産）を秦野拠点に統合、従業員1000人は2016年５月までに神奈川事業所（秦野市）に配置転換するとしています。

さらに、戸塚工場を撤退するとし、昨年12月1日からキャリア面談を実施しています。熟年労働者に「あなたのスキルは？」と聞くなど、キャリア面談と評し、「やめろ」と言わんばかりの対応です。2016年３月までなら会社都合退職、4月からは自己退職になります。戸塚工場は、約4割が女性（組立）です。子どもを抱えての秦野配転は辞めざるをえない状況にあり、退職を余儀なくされます。

▼「日立リストラかながわ対策会議」を発足

昨年11月28日に電機・産業ユニオンや神奈川労連が中心になり「日立リストラかながわ対策会議」を結成しました。戸塚工場門前宣伝では、ビラに「私は日立をやめません。日立に残ります」とはっきり言おうなどの「新リストラ防止５ヶ条」を掲載。管理職からの相談などがあり、変化もうまれています。

戸塚ハローワークへの要請の中で、会社が戸塚ハローワークに提出した「再就職支援援助計画」には、①希望退職はあくまで本人の意向を尊重し、退職強要はしない。②再就職期限は無期限で行うなどとあるが実際は異なる退職強要が行われていることが明らかになりました。

「日立は雇用責任を果たせ」と訴える中村委員長（右から２人目）＝14日、横浜市戸塚区

『しんぶん赤旗』2016/1/15

また、今年の２月25日、畑野君枝衆議院議員が予算委員会で日立のリストラについて質問、大西厚労省大臣官房審議官は、大規模な人員整理については、「労働局、労基署が事実関係を把握し、企業を啓発・指導する」と答弁しました。

企業内組合が、労働者の生活と権利を守る闘いを放棄している中、「日立リストラかながわ対策会議」は、外からのとりくみで守らなければならないと奮闘しています。

▼大企業は社会的責任をはたせ

大企業のリストラは、労働者の生活だけではなく、地元地域経済への影響が大きくなっています。戸塚地域では、民商の方が「商店街がシャッター通りになる」と工場門前で訴えました。商店街への影響は深刻です。また、大量人員が移転してくる秦野市では、工場の従業員をまかなう給食産業に外国人労働者の雇用が見込まれ、現在でも労働時間の規制も犯す昼休み時間が１５分刻みなど、無法状態で働かされているとのことです。

大企業の社会的責任をはたさせ、理不尽な人員整理をやめさせるためには、市民の力で包囲していくことが重要です。

（3月16日、本間、中嶋、小島が話を聞きました）

年金引き下げ違憲訴訟 取り組みの現状

会員　村田　泰子（年金者組合）

全国4000万人の年金受給者の4割弱が月額10万円以下、国民年金のみの人の年金月額の全国平均は5万円程度で「健康で文化的な生活」とほど遠い生活を強いられています。さらに無年金の高齢者は100万人近くいると推測されています。高齢者ばかりでなく、非正規雇用労働者は4割近くになり、若者の国民年金納付率は50%を切り、低年金、無年金者はさらに増える可能性があります。このように、現行年金制度は憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」以下の水準を一層低下させ年金受給者の生活を破壊するものです。

今回の年金裁判は、特例水準解消を理由とした年金引き下げを違法、違憲とする裁判であるが、高齢者の生活を支えられない現行年金制度の貧困、無年金、低年金の実態とさらに増えるであろう現役世代の老後の低年金化などを、法廷内外の運動によって国民の前に明らかにすることです。「年金権」を確立させ、これ以上の年金引き下げを許さず、マクロ経済スライドの廃止、最低保障年金制度の創設など若い人も高齢者も安心して暮らせる年金制度をめざす広範な運動としていきます。

昨年7月15日、私たちは横浜地方裁判所へ255人が提訴しました。しかし、横浜地方裁判所は行政訴訟だから高等裁判所のある地方裁判所へ移送することを3月2日に決定しました。これは、裁判所が年金引き下げ処分は、厚生労働大臣による処分に過ぎず、各地の年金事務所は実質的な事務をしていないという形式論を重視し、行政訴訟の規定通り、東京地方裁判所にしか管轄権がないという理由です。

私たちは移送決定を不服として、現在東京高等裁判所に不服申し立て（即時抗告）を行っています。高等裁判所は書面審理で、新しい調査等はほとんど行われないので、最高裁判所に委ねるほかありません。この間、私たちの年金裁判は審議されず、半年以上移送問題で闘わなければなりません。年金者の生活実態などを「支援する会」への呼びかけと共に訴えていき、もっと大きな運動にしていきたいと思います。

君嶋ちか子がゆく③ ・・・神奈川県議会報告

指定管理者制度の下で起きていること

●２００３年の地方自治法改正により、自治体の施設の管理・運営を営利企業・NPO法人などに任せることが可能になりました。その結果、指定管理者制度の利用が進んでいます。

当初よりこの制度に対しては大きな懸念を持っていましたが、県議として具体的な問題に関わることも多くなり、次の二つのケースは本会議でも取り上げました。

●ひとつは労使関係に関わる問題です。

県立愛名やまゆり園の指定管理者は、医師から「就労可」の証明が出ているにもかかわらず、交通事故で障害を負った職員の復職を拒否しています。障がい者支援施設でありながら、障がい者差別を行っているという問題でもあります。

知事は、指定管理者の労働環境確保や法令違反等は指導するといいながら、具体的な対応を図ろうとはしていません。

●またひとつには、労働条件にかかわる問題です。

神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理者が、県が示す指定管理料を受け入れるために、大幅な賃金引き下げを職員団体に求めています。

視察を行いましたが、人員が不十分な中で、職員の献身的な働きによって機能が維持されています。

リハビリにおいて、全国の水準をけん引してきた施設です。高度な専門性が必要とされます。大幅な賃金引き下げにより、今後多くの離職者も予想されています。

これでは、自治体が「労働力の買いたたき」と「人員削減」を施設に強制しているということになりかねません。

行きつく先は、施設の縮小という見方もなされています。そうなれば、被害者となるのは県民です。

●大事な役割を有し、いわゆる「採算性」を度外視してやらなければならない分野こそ、「公」がしっかりと担うべきです。そのために政府や自治体はあるのです。

指定管理者制度による「人件費削減」「公の責任の放棄」はやめるべきです。制度そのものの見直しとともに、神奈川県においても不当な指定管理料を見直していく必要があります。

電機大リストラに反撃する学習決起集会から

会員　小島　八重子

集会で開会あいさつをする中村さん

３月２７日午後、川崎市教育文化会館会議室で「電機大リストラに反撃する学習決起集会」が開催され、参加しました。

最初に「東芝粉飾決算と労働運動」と題して大木一訓さん（労働総研顧問）の講演を聞きました。東芝の粉飾決算は、原発部門で、アメリカの原発製造会社ウェスティング・ハウス（W・H）を市価（2,000億円）の３倍以上の（6,600億円）で買収。そのW・H社の大幅な赤字で減損したことを覆い隠すために行われたこと。東芝が看板の家電部門を解体しても、原発部門で赤字を回収する姿勢を変えておらず、今後15年に原発を64基受注の事業計画を立てていること。安倍のすすめる「戦争法」と一体となって軍需産業化を狙っていること。東芝のリストラと闘うには、労働者・国民の側から大企業に対する民主的規制をしてくことが喫緊の課題であると強調されました。

米田徳治電機・情報ユニオン委員長の基調報告では、電機リストラ28万人は安倍内閣の政策と一体で進められている。東芝・青梅事業所閉鎖問題で東京労働局に対し、雇用対策本部の設置を要請する取り組みを展開。雇用と地域経済を守り、職場に自由と民主主義を確立するために、職場を基礎にとりくむ決意が話されました。

たたかいの交流では、ルネサスでは大量異動計画で、育児・介護で異動できないと大量の女性がやめた。女性の活躍とは逆行する。一方団交や国会質問の中で遠隔地配転の女性2人が元の職場に復帰したと運動の成果が話されました。

学童疎開と８月１５日の青い空

会員　三井　きみ江

小学校３年生の夏休み８月30日、突然普段着を詰めたこうり（行李）ひとつ持って、横浜市立戸部小学校3年生から６年生までの学童は箱根駒ケ岳へ集団疎開させられました。

空襲も激しくなってきたとはいえ、突然の親との泣き別れ、疎開先で親元へ帰りたいと夜になって逃げだすものが出るなど、学童にとってはつらいできごとでした。

戸部小学校は２つの宿舎に分かれ、６畳間に5～6人ずつ詰められ、午前中は複数学年合同の授業、午後は山の杉林へ生活燃料の薪取りに行き、先生が切り落とした枝を束ねて背負って帰ってくるのが日課でした。

箱根の寒い冬も部屋には火鉢がひとつ、お風呂は大勢が一度に入り芋を洗うようで、衛生面も行き届くわけはなく、すぐにしらみ（虱）が蔓延して大変でした。それにいつもひもじい思いをしていました。

寮母として近所の人の手伝いもあったようですが、男の先生は「招集」され出征していくこともありました。そんな中でも忘れられない思い出がひとつ。敵性語や外国の歌も禁止されているのに、ひとりの女の先生がひっそりと私たちだけに外国の子守唄（だったと思う）を歌ってくれたことです。数少ない男の先生も招集され出征して行きました。

ひと冬越して翌年の夏、1945年８月15日終戦。その日学童たちは一か所に集められラジオ放送を聞かされました。わけもわからない「玉音放送」で泣いている先生などを見て、戦争が終わったらしいことを知りました。

狭い部屋に詰め込まれた自由のない毎日が終わる！！外に飛び出すと真っ青な空は高く澄んで、太陽が輝いた！という記憶があります。

皆で駆け出して、近くの緑の原っぱで「でんぐり返し」を何度もしました。あれは子ども心に感じた開放感の表現だったのでしょうか。

横浜大空襲では、父母姉達は逃げまどって大変だったとのことでした。家具木工店を営んでいた我が家は焼け出されてしまいました。けれど兵隊に招集された兄は、８月15日を過ぎても戻って来ず、戦死の広報が届き、諦めて仏壇の注文をしようと出かけたところへ、本人が帰還！驚きの事実でした。北方での抑留生活で大変な経験をしてきたようでした。そのことについては今も触れることはありません。

無邪気に楽しく遊び学ぶはずの、小学生の一時期を集団疎開で奪われた貴重な1年余。あれから70年以上を経ても忘れることができません。

薪拾いし学童疎開がよみがえる
奥多摩深き杉の林に

三井　きみ江

（三井さんからお話を聞き、本間さんがまとめました）

映画が好き

「牡蠣工場」

会員　池田　資子

この映画（ドキュメンタリー）の舞台は岡山県牛窓の小さな漁村です。私は生まれも育ちも岡山県ですが、牛窓と言えば、日本のエーゲ海、美しい海と島々そしてオリーブ畑。そこで牡蠣の養殖が行われていようとは……牡蠣は好きでよく食べました。広島産と信じこんでいました。

養殖筏から採取される牡蠣の塊。クレーンで釣り上げ叩き落とし、バラバラにしていきます。最後は人が金属棒で叩き落とします。牡蠣をバラした後の汚泥を掬い処分するのは重労働です。牛窓には今６軒の牡蠣工場があり、11月から牡蠣剥きが始まります。工場を引き継いだ男性はもともと宮城県で牡蠣の養殖をしていました。しかし東日本大震災にあい、妻子を連れて牛窓に移り住みました。牡蠣剥きは主に地元のおじさん・おばさんが働き手としてやってきました。座りっぱなしの単純できつい仕事。人手不足が問題になってきました。そして、「中国来る」という事態になります。

監督の想田さんは、自分の撮る映画は観察映画だと言っています。カメラを持ってふらっと現場を訪ね、カメラを回し、話をする。台本もナレーションもなし。

漁村の生活が淡々と描かれます。「シロ」という猫が自由に歩きまわり、子どもたちが無邪気に遊んでいます。平和な光景です。そこへ牡蠣剥きのために中国の若者２名がやってきます。彼らの為に60万円のコンテナハウスを用意し、言葉や習慣の全く違う人に仕事を教え、働いてもらう。そうしなければ成り立ちません。「はい・はい」とニコニコ答える若者。不安を隠して、彼らも家族のために働かなくてはなりません。無事に仕事を終えて帰国出来るのでしょうか。

小さな漁村の日常をユーモア交えて描き、その中に東日本大震災、原発事故、過疎化、高齢化、人手不足や後継ぎ不足、そして外国人労働者と盛り沢山の問題が見えます。しかし、想田監督は決して声高にはなりません。映画を観る私たちが何かを感じ、考える。そのきっかけを示しているだけです。

バルト三国ツアー連載②

「命のビザ」杉原千畝を訪ねて

会員　佐久間由美子

◆人間の鎖

リトアニアの首都ヴィリニュスには、ソ連からの独立運動、200万人の「人間の鎖」を記念する壁がある。壁はリトアニア国旗の3色、黄・赤・緑に塗り分けられ、出発点となった大聖堂前の敷石にも足型が刻まれている。バルト三国は91年にソ連からの独立を果たすまでに、さまざまな国の支配を受け、その複雑な歴史は私には到底理解できそうもない。バルト三国合わせて700万人にも満たない小国での200万人の鎖が独立の悲願を表している。

◆KGB博物館

エストニアの首都タリンにはKGB博物館がある。ソ連時代の近代的な豪華ホテル、Viruホテルの最上階23階にKGBの「執務室」がおかれ、盗聴器が客室内やレストランの皿などに仕掛けられて、諜報活動が行われていた。ソ連崩壊で、とるものもとりあえず慌てて逃げ出した当時の機材や物品がそのままに保存されている。同様のものがリトアニアにもあり、ソ連が卑劣な手段を使って国民・民族を監視・支配・弾圧していたことがわかる。

リトアニア・ヴィリニュスのネリス川の岸辺にある公園

最後に食事について。肉・ジャガイモ・卵・乳製品が中心。鶏と豚はおいしいが牛は堅い。ソーセージ類とチーズ・ヨーグルトは美味。野菜は少ない、ジャガイモがおいしいけど食べきれないほどでる。パンはおいしく、ぼそぼその黒パンやライ麦パンは、癖のある味のチーズと併せると、魔法のようにおいしくなる！ケーキ類・スイーツはおいしい！バルト海に面しているので、市場にはたくさんの魚が並んでいて、特に鮭のソテー（デカイ！）とニシンのマリネがおいしかった。珍しかったのはカウナスで食べた「ツェペリナ」、ジャガイモをつぶしたものでひき肉を包んで楕円にまとめ、茹でて、サワークリームのソースで食べる。「飛行船」ツェッペリンに似ているので、この名前だとか。とにかく大きい！大きな皿に2個デーンと載かっている。おいしいが1個食べるのがやっと。リトアニア・トゥラカイ城の道端で自家製ミートパイを売る女性を発見、皆で買ってほうばってしまった。(完)